

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

40th
and more

セレスポ

セレスポ・ニュース
平成30年5月発行
第103号

CERESPO NEWS

vol. 103 May 2018

車椅子でお買い物体験

～パラアスリートと学ぶバリアフリー～

「こんな視点なんだ！」
イオンモール成田で
車椅子を使った
買い物ゲーム！

セレスポ
Pick Up



01 岐阜県から19名の中学生が
社会科見学に来てくれました！

02 トークセッション
「パラスポーツ×ビジュアルコミュニケーション」を開催します

車椅子でお買い物体験

～パラアスリートと学ぶバリアフリー～

「みなさんに笑顔になって」 ～イオンモール成田の想い

4月28日、イオンモール成田でスポーツツーリズム推進イベントが開催されました。その中で、地域共生社会に重点を置き、車椅子を使った「一緒にお買い物ゲーム」では、パラリンピックメダリストの永尾嘉章、由美ご夫妻と一緒に、車椅子を使ってイオンモール内で買い物をしました。イベントでは普段触れる機会が少ないパラスポーツの体験会も行われました。今回は、イオン株式会社の櫻井千代さんに、本イベントについてお話をうかがいました。



今回の車椅子体験ゲームにはどのような気持ちを含めていたのでしょうか？

櫻井さん：イオンモールでは「いろんな人に笑顔になって欲しい」と考えています。障がいのあるかたでも安心して買い物を楽しめる施設にしていきたい。スポーツは誰でも笑顔になれますよね。本ゲームはスポーツツーリズム推進イベントのひとつとして行いましたが、車椅子を体験することで障がいがあるかたや小さい子どもを連れているかた、お年寄り、病氣療養をしているかたなど、多くのかたが理

解を深めて一緒に笑顔になれたら嬉しいと考えていました。

イベントを終えてみて、どうでしたか？

櫻井さん：一回きりではもったいない!と思いました。参加してくれたお客さまが楽しんでくれましたし、体験ゲームに参加した弊社の新入社員もそれぞれ課題が見つけられたそうです。普段お会いすることができないパラリンピアンから貴重なお話をうかがえましたし、次の機会にはよりよいイベントにしていきたいと感じました。

本イベントを通して、櫻井さんご自身で気付いたことなどはありましたか？

櫻井さん：イベントを作り上げていく中で、積極的に“外”を見ていきたいと感じました。本イベントは地域共生社会やダイバーシティも意識しましたが、関わる組織、人の想いはそれぞれ違います。誰かが嬉しくても誰かが傷つくような状態では主旨と変わってしまいます。今回、車椅子



夫婦でパラリンピックメダリストの永尾嘉章さん、由美さん

を体験した新入社員とも意見をだしあってより快適な店舗づくりをすすめていきたいです。

最後にイオンモールとしての意気込みをうかがえますか？

インタビュー所感

私も車椅子体験をさせていただきましたが、普段何気なく手に取っていた商品に手が届かない。移動もお客さまの位置を考えながら…永尾さんはスイスイと移動していましたが、いままで車椅子の目線で考えたことがなかったので貴重な体験になりました。



イオン株式会社
グループ経営企画部 2020推進PT
櫻井千代さん

欲しい」



高い位置の商品に手が届かない！
永尾さん「コツがあるんですよ」



棚やほかのお客さんを見つ車椅子が
通れるかを気をつけながら買い物をし
ます。



店舗づくりのヒントを永尾さんに
その場でもらう



買い物ゲームで買ったのはサンド
ウィッチの材料。みんなで作って食べ
ながら、体験したことを話しました。



櫻井さん：イオンモールではお客さまに「頼りになる」「信頼できる」と思っていたかいたと考えています。「車椅子でも買い物しやすい」。そう思っていたかいた、ちょっとしたことでもご意見をいただけたら嬉しい

です。洗剤が切れちゃったなどの目的がなくても、「ちょっと行ってみようかな」「来て良かったな」「また来よう」と気軽に来店できる雰囲気や環境をこれからも整えていきたいと考えています！

EventData

- 車椅子でお買い物体験
～パラアスリートと学ぶバリアフリー～
- 2018年4月28日
- イオンモール成田
- 主催：イオン株式会社



REPORT 株式会社セレスポ 千葉支店 浪江 美里(なみえ みさと)

イベントの仕事は「想いを創る」仕事

今回は「車椅子でお買い物体験」ゲームを櫻井さまと一緒に企画、運営しました。櫻井さま、イオンモール成田さまが強い想いを持って取り組んでいる企画ですので、机上で話すだけではなく実際に店内を車椅子に乗って回らせていただき、全体の流れ作りや、参加してくれたかたがどんなことを考えるか、気持ちを持つのか共通認識を持って進めていくことを意識しました。

今回は大型のイベントのひとつだったので、イベント全体のカラーを崩さないことやコンセプトに合ったものにするこも考えま

した。イベントを通して、参加してくれたかたがたにどんな想い、気持ちを持って欲しいのか、その中でもどんな気づきに繋がるのかを徹底的に櫻井さまと議論したのは良い思い出です。

イベント作りの仕事は、ゼロからモノを生み出す「想いを創る仕事」だと思っています。お客さまだけではなく、一緒にイベントを作っていく協力会社さま、それぞれの想いをひとつにしていく仕事なのでやり甲斐があります。

参加いただいた官公庁のかた、イオンモールさまの他店舗からも「ぜひ参加した



い！」「やってみたい」とお声がけいただきました。これからもさまざまなお客さまと一緒に「想い」を創っていけるよう、アンテナを広げて積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

セレスポ
Pick Up 01

岐阜県から19名の中学生が 社会科見学に来てくれました!

昨年に引き続き、岐阜県の高山市立中山中学校から19名の生徒が社会科見学の一貫として来社しました。パラリンピアンで当社社員の永尾由美さんも参加し、当社の取り組みを通じて2020年やさらにその先にむけたこれからの社会の変化や影響などを一緒

に考えました。競技レーサーに搭乗したり、金メダルに触れたり、なかなか体験できないことに興味津々で、自分たちの周りのイベントや、働くということについて一緒に考える機会となりました。



セレスポ
Pick Up 02

トークセッション 「パラスポーツ×ビジュアルコミュニケーション」 を開催します

パラアイスホッケー選手の上原大祐氏と、写真家の越智貴雄氏をお迎えし、2020年に向けて、ビジュアルを切り口としてパラスポーツの魅力を見つめるとともに、より多くのかたに魅力を伝えるためのポイントなどをお伝えします。

日時：2018年7月5日(木) 14:30~17:00(受付14:00)
場所：AP秋葉原 ルームO+P(1階)
〒110-0006 東京都台東区秋葉原1番1号
費用：1,000円



▲越智貴雄氏



▲上原大祐氏

詳細・お申込みは
こちらから!



セミナーに関するお問い合わせはこちら

コーポレートデザイン室
TEL : 03-5974-1111
Mail : cd@cerespo.co.jp

発行

発行日：平成30年5月25日

発行元 株式会社セレスポ (CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 (本社)
TEL : 03(5974)1111 FAX : 03(5394)7651
http://www.cerespo.co.jp/

編集 山川 謙 (yawn)
記事 コーポレートデザイン室

デザイン 山本制作所
CERESPO NEWSに関するお問い合わせは

株式会社セレスポ コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで

編集後記

今回の「一緒にお買いものゲーム」の参加者のみなさんも感じたように、自分たちが何気なく行っている場所や、使っているもの、やっていることが、必ずしもみんなにとって快適とは限りません。実際に違う目線にたってみるといことは、実際に体験してみて初めて気付くことやきっかけ等がたくさんあり、自分の体験や経験に基づいて「相手の立場にたつ」ということから、一步レベルアップした「共感する」ということにつながります。車椅子の乗車体験やパラスポーツ体験の機会も徐々に増えてきていますので、身近でこのような体験機会に遭遇したら、ぜひ挑戦してみてくださいね!